

# 特集3

宇和島市  
御槇保育所

## 閉園になった保育所が生まれ変わった 「みまきガーデン」

みまきガーデン 代表 梶原 一二三



なつかしい記憶のふるさと御槇

保育所を「みまきガーデン」に…

みんなでできることは手作り

私達の「みまきガーデン」は、宇和島市津島から県道4号を篠山登山山口に向かう途中の御槇地区にあります。高知県との県境で山を越えると、もう宿毛市です。この地域は、標高約250mの盆地のため、昼は温かいのですが夜は気温が下がるのでお米が大変おいしい所です。そこで、「みまきガーデン」を立ち上げる時に一緒にお米のブランド化もしました。そして、御槇は人口約350人のうち高齢者が50%を超え、小学生が数人しかない状況です

が、なんとか小学校は置いてもらっています。児童だけでは運動会は出来ないのので地域をあげて行っています。



みまきガーデンのシンボルマーク

現在「みまきガーデン」として活用している保育所施設は、2年間休園した後、6年間放置されたままでした。休園時は地区の老人の方が掃除などをしていましたが、その後は管理費用が無くて庭には草木が生い茂ってしまいました。そんなとき、独居のお年寄りが多いので調理室を活用して配食サービスをした。自分たちがおばあちゃんになった時のためにも「保育所の調理室が使えることない？」という事で、閉園になった御槇保育所の活用を検討することになりました。

何度も集まってお母さんたちで深夜まで相談（雑談）したり、高知県（四万十市、黒潮町、本山町）や周辺の地域に視察にも行きました。その結果、多くの施設が「宿泊」をすることが安定的な収入になっているので、「宿泊」「土日ランチバイキング」「平日お惣菜」「週1回配食サービス」に取り組んでいくことにしました。まず、ジャングルとなっていた保育所を、

地域の方々や市が募った大学生、企業のボランティアの皆さんで色々お手伝いいただき、整地、草刈、壁に色を塗り直したりしました。

自宅倉庫で手作り小物の販売やシシ汁を振る舞う「まごころ市」を10数年開催していたお母さん達にも協力していただきました。



みなさんによる草刈

「みまきガーデン」での活動

旧保育所を改修した「みまきガーデン」は、平成26年4月1日にスタートしました。御槇地区のお母さん達が宿泊所、土曜日、日曜日のランチバイキングを運営しています。また、毎週1回独居の方に配食サービスを行っています。当初は15軒程度の利用でしたが、今は26軒に増えました。この配食サービスは独居



小中学生の合宿

老人の見守りも兼ねています。配食サービスの日には、できた弁当や惣菜を販売して、地域の高齢者が買い物に訪れます。

また、食堂で実施している土日のランチバイキングは大変好評で、宇和島市内、愛南町、宿毛市、四万十市（旧中村市）から沢山来ていただいています。常連の方も増えてきました。

そして、宿泊施設は、団体さんのお客さんにも使っていただき大変助かっています。夏には高知県から水泳部の合宿と



ランチバイキング

「みまきガーデン」で活動を始めてはや3年が過ぎました。地域の理解・協力でなんとか運営できています。御槇ふるさと市や地域の大きな行事にも積極的に参加して、惣菜などを販売しています。活動当初はボランティアでの協力をお願いしていましたが、いつまでもボランティアではだめなので、今は少しでも時間が経過をお渡しすることができるようになりました。運営できる人間も少ない

これからの「みまきガーデン」

して連続で3泊していただいたこともあります。この合宿の時には小学校に協力してもらい学校のプールを使いました。今は「合宿」に力を入れて宿泊してもらうようにしています。

宿泊客は5月の連休や夏休みに多く、夜の鹿ウオッチングや朝の清々しい空気を満喫してもらっています。募参りなどで帰省しても既に家が無い方の宿泊などもあるほか、宇和島市内外の小中学生も利用してくれていて、夏休みはずっと大忙しですが、地域のお母さんの協力で運営することができています。



宿泊所の室内



お惣菜の販売

し、皆仕事の合間で協力していただいているので、短い時間で効率よくできるようなにしています。たとえばお客さんが少なくなる冬場はランチバイキングをお休みするなどしています。

そして施設運営には光熱費や食材の仕込み費がかかるので、赤字にならないようにしなければと考えています。

御槇地区は、周囲を山に囲まれた自然豊かな地域です。時候の良い時には私達の「みまきガーデン」に遊びに来て、美味しい「御槇米」や地元の農産物をご賞味下さい。お待ちしております。